

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140 9 145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918

発行人 内藤 留 幸
 編集主筆 竹 澤 知 代 志
 印刷所 株式会社きかんし



碓氷峠まで90分のハイキング、記念撮影後、名物の餅をいただく

キリストと教会に仕える

38年変わらぬ主題で、全国教会青年同盟修養会

八月二〇日から二二日までの三日間、恵みシャレー軽井沢を会場として、全国教会青年同盟の主催による「中高生献身キャンプ」と「教会青年夏の修養会」が開催された。

一九六九年秋、全国教会青年宣教会が教団紛争の影響を受け開催中止となつてより、まもなく四〇年を経ようとしている。その中で、参加青年はもとより、紛争勃発時には生まれていなかった教職リーダーたちも含めて、聖別された恵みの時を分かち合った。

中高生キャンプも青年修養会も、キリストと教会に仕える、との主題の下で行われた。全国教会青年同盟

夏に集う若者たち 2008

結成以来、変わらずに守られてきたものである。全国教会青年同盟は、一九七〇年九月十三日、三崎町教会を会場に結成式を行い、集った百名近い全国の教会青年ならびに青年教職らによって結成された。同年七月に開催された「全国青年セミナー」(福音宣教会主催)に出席した教会青年による青年部結成の申し合わせが、青年同盟結成のきっかけとなった。

その背景には、一九六九年一〇月に開催が予定されていた全国教会青年宣教会議の中止決定(同年九月)がある。同年九月には、いわゆる「九・一、二」で知られる混乱した常任常議員会があり、教団は紛争へと突入していった。その前年、一九六八年には第15回教団総会が開催され、機構改正により青年伝道専門委員会がなくなった。こうした状況にあっても、青年伝道の必要を痛感し、熱意を持ち続けた教会青年、青年教職らの祈りと決意とを受け継がれ、青年同盟の働きを支えてきた。

青年同盟結成の目的は「聖書信仰の上に、多難の時代のただ中で教会青年としての責任を深く自覚し、生涯を通じて教会に仕え、福音宣教の使命のために連帯して活動を推進する」と謳われている。この目的に合う活動として、夏の青年修養会、献身キャンプ、セミナー等が行われてきた。また、青年伝道専門委員会の働きを継承する自覚を持って、「教会青年」と題する機関誌を発行し、その働きを諸教会と分かち合うことを続けてきた。献身キャンプは、従来高校生が対象であったが、ここ数年、中学生をも迎え入れ、中高生キャンプとして行われている。これらの働きのために、チャプレン、リーダー、スタッフとして、多くの教職、信徒が協力してきた。

また、この働きを通して、



食卓の交わりは修養会の華。しかし、未だ雰囲気は堅く、皆さん料理に夢中。あまりおいしい食事は、却って交わりの妨げになるのかも。

多くの献身者を生み出し、ある者は教職として、またある者は教会役員として、「キリストと教会に仕える」使命に与っている。現在のスタッフの多くもまた、青年同盟によって育てられてきた教職、信徒である。

一九九九年には、青年同盟出身の教職を中心に、その働きを西日本で展開するというビジョンが与えられ、西日本教会青年同盟が結成され、同じ目的に合う活動を展開している。

旅人としての人間(アブラハム物語に聴く)

逃げようと思っても逃げられない道が

近年、諸活動への教会青年の参加減少が言われる中で、今回は、十六教会より、中高生五名、青年二〇名の参加が与えられ、リーダー、スタッフ、講師の教職ら十四名を合わせて、三十八名で三日間を過ごした。また、十数年ぶりに、献身キャンプと青年修養会を同時開催とした。講演、分団等は別プログラムであるが、燭火礼拝、聖別等は合同で行った。中高生にとって、教会青年との出会いと交わりは、進路や人生の目的を考

える上で大いに刺激となる。逆に青年にとって中高生との出会いと交わりは、信仰について、また、教会青年として信仰継承の課題を担う自覚を与えられるなど、思わぬ形で恵みが与えられた。

中高生献身キャンプでは、小倉義明講師(聖学院院長)を講師に迎え、「旅人としての人間」というサブ主題により、創世記十二章からアブラハム物語に聴きつつ二回の講演がなされ、中高生らは引き込まれ

るように御言葉の学びへと導かれた。私たちが知らず知らずのうちに導く「神さまの声」がある。逃げようと思っても逃げられない道が備えられている。召命と献身について、参加者それぞれが問われていることを感じることができたように思う。二回の分団では、アブラハム物語を参加者全員でスタンツにまとめ上げ、最終日の全体会にて、青年修養会の参加者の前で発表することができた。朝には、早天礼拝を守った後、

軽井沢の自然の中で、参加者各自、それぞれ教職の導きにより御言葉を黙想し味わう時を持った。晩には、青年修養会と合同で交棒と賛美による燭火礼拝を守り、青年二人による証しを聞き、献身の思いを深めた。誰とも話さずに終わるのではないが、この不安をそれぞれが抱きつつ参加したことと思うが、一日目の夜には、中高生同士のみならず、青年たちともうち解け合い、主にある交わりの豊かさを存分に味わいつつ過



中高生のクラス、左端が小倉義明講師。

ごすようになつていた。参加者の内、既に受洗、信仰告白をしている者が三人、信仰者の家庭で育つ者が二人、それぞれの生活の座は違ひ、礼拝を守る教会は異なる。この時、受洗の決意や伝道者への献身の志が語られることもあった。

今年参加のリーダーの中には、ここでの決心から教職となった者もいる。中高生と青年らの召命と献身、その苦闘のために祈りを合わせたい。

(林牧人報)

荒野の

大仕事を一つし終えて、たまの贅沢、友人と天麩羅屋のカウンターに座った。

季節のものをいりると勘められる。ちよつと勘定が気になりながらも、おいしいただ、江戸前の六子です。「千葉の薩摩芋」。愛知県の特大アサリ、殻ごと揚げていますが、殻はお勧めしません。この頃の世相を反映してなのか、それとも、良い店はそうなのか、滅多に入ることはないから分らないが、いちいち産地を明らかにする。産地が明確、即ち高級ブランド、高級店ということか。ふと気づいた。板前さんが全員名札を付けている。しかも、出身地入り。板前さんも産地を明らかにしなくてはならない時代・世相なのだろうか。そのうち、カレーの店などでも、インド何々州出身とか、名札が下がるかも知れない。新報の消息(訃報)欄に、故人が働いた教会名その他に出身学校が入る。他の新聞でも常識だ。その人物の一生を紹介するのに、ごく僅かな字数しかない。学歴が必要なのだろうか、常々疑問なのだが、留学歴の掲載を希望する遺族も少なくない。

伊豆大島で伝道講演会

石井錦一牧師の体験的伝道論

「伝道とわたしたち」 信仰の基本に立つて

教団伝道委員会主催の伝道講演会が、大島元村教会（並河光雄牧師）を会場に開催された。静岡教会（伊藤瑞男講師）、岡山教会（東岡山治講師）、島之内教会（西原明講師）に続き第四回となる。今回の講師は、石井錦一氏（松戸教会牧師）。大島ではあまり行われないという夜の集会だったが、満席に近い会衆が集められた。

講演は、1. 神学生として学んだこと、という小見出しのもとに、神学生時代、教会員からピアノや茶道を習った体験談から始められた。戦後間もなくの頃、練習後にいただくご飯を目当てに通ったもので、決して熱心とは言えなかったが、讃美歌を歌う自分の声が響いた。

程を外した時、それと分かるようになった。そここそ教会員の狙いがあって、後で気付かされる。同様に茶道も仕込まれ、茶の席は勿論、さまざまな席に怖じずに出られる程にはなった。

このエピソードと、洗礼を受けてくれたラング宣教師の思い出が重なる。フアンダメンタルな信仰を抱いていた師の信仰指導の基本は、聖書以外の本は読んではならない。道を逸れそうになると、あなたは悪魔です」と言う叱責が待っていた。極端なようだが、この言葉は、後々まで石井氏の牧師としての歩みをたどり、整えてくれた。今日に至るまで、説教として牧会、伝道に向かい合う際の基本の基本となっている。

以上は、講演のほんの枕の部分だが、推察しただけで思う。石井氏の講演は、思い付くまま四方山話を語っているようで、実は一本の筋が通っており、個々のエピソードは、ジグソーパズルの部品のごとく組み合わせられていて、無駄なもの一つもない。個々のパーツに興味を惹かれていたうちに、あまり表面に押し出されてはいないが全体を貫



77歳、体力・気力旺盛な石井錦一牧師



大島元村教会、伝道委員も真剣に聞き入る

点と続き、実に豊富な体験、尋常ではない特異な出会いの数々が披露された。

全体をミニチュア化して紹介すると、氏の体験、出会いまで矮小化するかも知れない。それこそジグソーパズルのパーツを拾い上げる格好になるが、特別に輝きがあると思われ、特別に特別に形が面白いと感じた一片を紹介したい。

2. 3. では、牧師・伝道者として出会った信徒や同僚者が次々と登場する。ここでも、出会いによって育てられたことが強調された。牧師とは、人を教える存在ではなく、教えられ、育てられるものであるかのようだった。

ここで取り上げるべき一片は、結核病棟を訪ねて聖書を学んだ話。心待ちしてくる患者が、この人なり最高のもてなしと、頂き物の饅頭を勧めてくれる。日が経っており微が来ていることに、視力の弱っていないこの人は気付いていない。十字架は多くの人生を生きる目当てとならなくてはならない。

また、極めて印象的だったことには、石井伝道方式の要であった家庭集会による伝道を、本人が、社会や家庭の有様が変わった現代では通用しないと言いつつ、自分では得意ではないのだから分かったようなことは言えないとしながらも、パソコンの駆使、ホームページの充実、その他にも多くの術があるだろう、何より新しい伝道システムを構築することが肝要と提言した。

ここでも、1の大前提に立ち帰ることになる。基本の基本が大事、それを修め、そこに立つ者だけが、あらゆる局面に対応し、全てのものを援用できる。

5. これからの伝道では、社会施設に於いて、子供のため、働く人のため、保護者のため伝道すべきと言った。

保育所の職員採用試験に際しては、礼拝出席を奨め、出席を約束して貰う。キリスト教主義で教育するのだから当然のことであり、保護者にも同様に礼拝・教会を案内する。この点に関して、信教の自由を言う人があるが、キリストの名をもって教育する以上は当然のことであり、この姿勢を批判する人は、むしろ経営のためだけに幼稚園や保育園を運営しているのではないかと、そのようなものならば教会には不要と、断じた。

信徒訓練では、牧師の立場にある者がなかなか触れづらい献金について述べた。本当の意味が分からないから献金意欲が湧かない。給料ではなく謝儀、神への感謝である。献金を例にとりながら、簡単・簡潔な信徒訓練の必要が語られた。地域社会での牧師としての働きについて、ここでも多くの具体例、具体的な提言が述べられた。

(新報編集部報)

「農」に関する協議会関東教区での開催検討

第6回伝道委員会

九月八日(月)〜九日(火)、東京教区大島元村教会、波浮教会を会場に、第35総会期第六回伝道委員会が開催された。

主な報告、協議事項は以下のとおり。

★業務報告、会計報告、常務委員会報告、宣教委員会報告、教誨事業協力会幹事会報告、「この友」信徒の友」編集委員会報告。

★「宣教一五〇年」事業に関する件 伝道講演会開催を継続し、講演原稿及びその他の伝道に関する文章を集め、冊子化する作業を継続する。

★放送伝道資金残金の使途に関する件 教団が開設予定の公式ホームページに伝道コラムの欄を設けることは可能。また、「この友」に連載されている信徒の証しをアップすることも良いアイデアなので、可能かどうか出版局に問い合わせる。

しかし、放送伝道資金金は、この程度の使途では使い切れない。使途を放送メディアに関わることに限定されているが、放送伝道の範囲をもっと広く考えられないか、改めて検討したい。

★第36総会期「農」に関する協議会に関する件 二〇〇九年度中に、今回は関東教区で開催する方向で、検討する。詳細は次期、第36総会期伝道委員会に委ねることとした。

委員会を夕方まで終え、夜は大島元村教会を会場に伝道講演会を開催した。松戸教会の石井錦一牧師をお迎えし、「伝道とわたし」と題して、お話をいただいた。この会については別に報告があると思うが、私としては、関連の社会福祉施設において子供、保護者、

職員に対して、憚り遠慮するのではなく、積極的に伝道しようとしてくれる先生の姿勢に感じるものがあった。

九日(火)は伝道委員会の一員でもある竹井真人牧師の牧する波浮教会をお訪ねした。

今回は援助金、貸付金申請がなかったため会議は前日のうちに終った。波浮教会では教会の歴史と課題をお話し、その後、役員・教会員の方々と共に合同祈禱会を行った。

(山岡創報)



大島元村教会 並河光雄牧師、現住陪餐会員55名、朝礼拝出席平均29名、祈禱会6名、教会学校5名、東海汽船大島元町港から、歩いて5分ほど、島の情緒を味わうことが出来る。近くには源為朝の館跡も。



波浮教会 竹井真人牧師、現住陪餐会員32名、朝礼拝出席平均15名、祈禱会4名、教会学校8名、東海汽船大島元町港〜大島バス・波浮港。かつては漁船で溢れた港も、今は寂しく。小さいが綺麗な礼拝堂。

岩手・宮城内陸地震被災教会訪問

陸前古川教会、余震で被害拡大

六月十四日午前八時四十分、岩手・宮城内陸地震に
よって、いくつかの教会が被災した。その中で最も被害が拡大したのは、陸前古川教会(大崎市)では幼稚園の父親参観日に当たっていたが、急遽行事を中止し、牧師は信徒の安否確認に追われた。栗駒方面の信徒の家には辿り着く事もできなかった。会堂の各所には亀裂や漆喰の剥落が見られる。最も大きい亀裂は、幅二センチにおよぶ。重さ三百キログラムの給湯器が三〇センチも動き、配管の修理も必要になった。余震や七月の地震で、被害は拡大する方向にある。

陸前古川教会は一九九九年に園舎の一部と牧師館を建築した。その時に予算を超えたため、二次計画の会堂建築のために会員が新たに資金のプールを始めた。しかし先日の地震だった。しかし今回の地震によって会堂は被災。七月二〇日に行われた臨時教会総会で「会堂・一部園舎建築」を決議した。被害が大きくなった原因の一つとして、一九七〇年頃に会堂を増築した際に、建物の重心が二つになってしまった事が挙げられる。診断は、すぐに倒壊する事はないものの危険度BとCの間。縦方向は89%、横方向は29%の強度との診断だった。補強工事を行ったものの、100%は確保できなかった。礼拝堂に関しては、補強工事でもせず、立ち入り禁止の状態。その後の礼拝は園舎を借りて行っている。一日も早い再建が教会員の祈りだ。

再建に必要な資金として



窓枠(左)や柱(右)に亀裂などの被害が大きい

最低でも二千八百万円が見込まれる。自己資金は現在五百万円集まっており、新規の予約献金や幼稚園関係者からの献金の申し出と合わせて三千三百万円程になる。あと千五百万円を外部に頼らなければならぬ見込みになる。瓦礫の撤去や諸経費を入れると、四千万円以上かかる可能性もある。計画を見直し、縮小し、神によって建築に踏み出すようにと押し出された。

秋季検定試験100名を超える受験者

第7回教師検定委員会

第35総会期第七回教師検定委員会が、八月四日(月)～五日(火)、教団会議室において、委員七名全員が出席して行われた。委員長・事務局報告において、第五回常議員会(七月十四、十五日)で、当委員会からの提案である「教師検定規則改正に関する報告」が承認されたこと、報告があった。これは「提案理由」に次のように述べていることに基づき、教師

が、今回のできごとを信じ、「試験を恵みへ」を合言葉に、自己努力で会堂を再建すべき」という声がある事も事実である。しかし前回の園舎建築と併せると、教員は六千万円強を献じている計算になる。できるだけの自己努力をしてきたのだと感じています」とは、関純一牧師の談である。

神によって建築に踏み出すようにと押し出されたの

第11回 部落解放青年ゼミナール

毎年夏に行われる部落解放青年ゼミナール。11回目となる今年は、8月5日(火)～8日(金)にかけて、大阪のいづみ教会を会場に、北は北海道から南は九州まで、また遠くアメリカからも参加者があり、計74名で行なわれました。

今回のテーマは『めしまだかあ? まだやったらうちおいで〜』このテーマの意味は、ずばり「一緒にめしを食う」ことです。これには、単に机上の学びや研修に終わるのではなく、共に食卓を囲んで語り、一人一人自分が「解放」される雰囲気の中から、被差別部落の置かれた歴史と「今」を感じる場をつくりたいという、企画者の意図がありました。また聖書では、差別や抑圧に苦しみ、嘆く人々を招き、解放の場を先取りして示した「イエスの食卓」を、今の時代において大切にしたいという願いが込められていました。

さて今回、その食卓に並んだ料理は、この地方の被差別部落で食されてきた「さいぼし」や「あぶらかす」、「フク(牛の内臓)の天ぷら」、またブラジルの奴隷料理として伝えられるフェイジョア(黒豆と豚の耳、舌、干し肉などを煮たもの)などなど...差別や貧困、迫害という苦難の歴史の過程で生まれ、受け継がれてきた「ソウルフード(心の料理)」ともいうべき料理の数々です。参加者はその一つ一つの料理の説明と、それが食される経緯について学びつつ、「味わう」ことを通して、被差別の歴史を学ぶことができました。

またその他のプログ

ラムでは、例年通り行なわれる入門講座や狭山事件についての学習、フィールドワーク(現場研修)に加え、参加者が自ら演じる参加型解放劇、一人一人が「解放」のテーマを歌や踊り、劇や一芸などで表現するLiberation Cup(リベレーション・カップ、Liberラテン語で「自由」の意味)という時間も設けられ、真剣さと笑いとの絶えない雰囲気の中、4日間があつという間に過ぎていきました。会場となつたいづみ教会の礼拝堂には、参加者が誰ともなく持ち寄ったギター数本にマンドリン、チェロ、一五一会(ギターのような新楽器)に三線、ジャンベ、ウクレレなど楽器の数々、常にどこかから音楽が聞こえ、また真剣な語らひは毎日遅くまで続けられていました。

総じて「青年ゼミ」のいい所は、部落差別の歴史や今を、「知識」として学ぶのではなく、その場において具体的な一人の人の「生の声」と出会い、自分自身が変わられていく場が用意されている点にあるのでしょう。

今回も様々な良き出会いが与えられたことに大きな感謝です。

(新堀真之報)



アメリカから17名の参加者があり、計74名の参加。近年一番多い参加者数。

消息



齊藤康彦氏(本庄旭教会牧師)

七月三〇日、逝去。六四歳、山形県に生まれる。一九七一年東京神学大学大学院修了後、小高教会、東新瀨教会牧師として務め、新津教会を兼務し、山形学院高校教務教師として奉職した。十七年から花輪教会を牧会し、八二年から本庄旭教会牧師を務めた。遺族は妻の繁子さん。

事務局報

齊藤康彦氏(本庄旭教会牧師)	船橋 就代(木下宣世)	矢吹 就代(今野善郎)	千歳栄光 就代(山本光一)
仙台北三番丁 就代(平井孝次郎)	余市 就代(天須賀豊稔)	士別 就代(又世そらち)	就主(下部康之)
安積 就主(江連 実)	隠岐 就主(小西陽祐)	輪島 就代(釜土達雄)	就主(坂井賢治)
高崎南 就主(加藤智恵)	広島牛田 就主(宮田 征)	神戸北 就代(内城 恵)	就主(坂井賢治)
敬和学園大学 就主(倉橋克人)	宇部 就主(今井清清)	神戸北 就代(大西高雪)	就主(坂井賢治)
安藤記念就代(五十嵐成見)	那覇中央 就主(金城重明)	古堅宗伸 就主(福島恒雄)	就主(坂井賢治)
洗足 就主(洪 徳憲)	北星学園大学・短期大学部 就主(久保礼子)	福島恒雄 就主(坂井賢治)	就主(坂井賢治)
銀座 就主(藤井清邦)	東洋英和女学院大学 就主(三上 章)	伝道所開設 就主(坂井賢治)	就主(坂井賢治)
富士見町就代(橋本いずみ)	中部学院大学 就主(梶原 壽)	山梨県北杜市明野町 就主(坂井賢治)	就主(坂井賢治)
弓町本郷 就主(山口和憲)	就主(笠井恵一)	浅尾新田一三四 就主(坂井賢治)	就主(坂井賢治)
池袋西 就主(小西 淳)	就主(口ハート)	伝道所所在地名変更 就主(坂井賢治)	就主(坂井賢治)
仙台青葉荘就代(森田聖子)	就主(伊藤大道)	桶川 桶川市下日出谷西三 就主(坂井賢治)	就主(坂井賢治)
		播磨町 兵庫県加古郡播磨町西野添五二〇一三 就主(坂井賢治)	就主(坂井賢治)

